

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(日銀金融政策決定会合)

2022/12/20

りそなホールディングス 市場企画部



〇概況

- ◆ 日銀は本日の決定会合で「長短金利操作の運用」について一部見直し、長期金利の変動幅を±0.5%程度とした。
 - ◆ 長期国債の買入れ額については大幅に増額する方針を示し、1-3月の月間買入予定は9兆円程度に増額とした。
 - ◆ 日銀が予想外のタイミングで金融政策の修正を実施したことで、国債や為替相場のボラティリティが高まり今後の動きに留意する必要
- ✓ 日銀は12月19-20日の金融政策決定会合で長短金利操作の運用を一部見直すことを決定した。

主な政策		声明文
長短金利操作	短期金利	日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する
	長期金利	10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、上限を設けず必要な金額の長期国債の買入れを行う。
	長短金利操作の運用	国債買入れ額を大幅に増額しつつ、長期金利の変動幅を従来の「±0.25%程度」から「±0.5%程度」に拡大する。 10年物国債金利について 0.5% の利回りでの指値オペを明らかに応札が見込まれない場合を除き、毎営業日、実施する。 上記の金融市場調節方針と統合的なイールドの形成を促すため、各年限において、機動的に、買入れ額のさらなる増額や指値オペを実施する。

✓ 本件見直しについて、「緩和的な金融環境を維持しつつ、市場機能の改善を図り、より円滑にイールドカーブ全体を形成していくため」とした。海外金利上昇等により円金利に上昇圧力がかかる一方で、日銀が10年金利の上限を0.25%に設定することで、各年限間の金利の相対関係や現先の裁定などの面で債券市場が機能低下していた。本件見直しは日銀金融政策によるこうした機能不全の副作用に対応するためのものとなる。

- ✓ 一方で声明文にもある通り長期国債買入れについては大幅に増額するとし、本日公表した1-3月の長期国債買入予定は従来の月間7.3兆円から9兆円程度に増額された。
- ✓ 長期金利の変動幅についても上下同水準でのレンジ拡大となっており、同時に国債買入増額を行うことで、金融緩和縮小を企図するものではないとのスタンスが伺える。本件修正により市場機能の改善が図られると、物価動向等への見方が変わらない中では直ちに緩和修正的な動きが出るとはみていない。
- ✓ ただし金融市場では10年金利を中心に円金利が上昇する中で円高、株安が進行しボラティリティが高まっている。先週末に2%の物価目標をできるだけ早期に実現すると明記した政府と日銀の共同声明改定方針が報道されるなど、従来より市場では日銀の政策修正観測が強まっており、市場は次の政策修正について意識する動きもあるだろう。当面日銀の動きへの思惑からボラティリティが高まる可能性には留意したい。

◆ その他の主な決定事項 (変更なし)

主な政策		声明文
資産買入	ETF J-REIT	ETFおよびJ-REITについて、それぞれ年間約12兆円、年間約1,800億円に相当する残高増加ペースを上限に、必要に応じて買入れを行う
	CP 社債 ※	CP等、社債等については、感染拡大前と同程度のペースで買入れを行い、買入れ残高を感染症拡大前の水準(CP等:約2兆円、社債等:約3兆円)へと徐々に戻していく

声明文	
フォワード ガイダンス	当面、新型コロナウイルス感染症の影響を注視し、企業の資金繰り支援と金融市場の安定維持に努めるとともに、必要があれば、躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる。政策金利については、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している